

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ハシモト マサヨシ
氏名 橋本 雅好

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 地方移住型政策における「お試し居住施設」の活用に関する調査研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	橋本雅好	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

移住・定住支援のうち「お試し居住施設の提供」に着目し、①全国の市区町村のうち「お試し居住施設の提供」をおこなう自治体に対し、お試し居住施設の改修内容、改修費用、運営方法などのヒアリング調査、及び、現地調査をおこない、②「お試し居住施設」を活用した人へのアンケート調査により、お試し居住施設での住まい方などについて分析することで、「お試し居住施設の提供」が移住促進事業において効果的であるのかを検討し、今後のお試し居住施設整備の展開に向けた運用方法、整備方法について考察することを目的とする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

1) 全国の市区町村のうち「お試し居住施設の提供」をおこなう自治体に対し、お試し居住施設の改修内容、改修費用、運営方法などのヒアリング及び、現地調査・ヒアリング調査・現地調査 (5 月～10 月)
2) 「お試し居住施設」を活用した人へのアンケート調査・アンケート調査 (5 月～12 月)
以上の 2 点を総合的に分析し、今後のお試し居住施設整備の展開に向けた運用方法、整備方法について考察する。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

アンケート結果から、40 歳以上の移住希望者をメインターゲットとしつつも、若年層や家族以外の続柄での移住希望者や職場を求めての移住も検討できるように、住宅の機能を限定しない、もしくは、空き家ごとの特徴を活かした異なる過ごし方ができるお試し居住施設の提案が求められていることがわかった。

全体の傾向として、滞在人数が少ないと使用されていない面積が増える傾向があり、居住だけをおこなった組では、土間や家事室の使用が少なく、趣味・交流スペースや家事補助スペースとしてうまく活用されておらず、キッチンや浴室といった特定の機能をもった空間と異なり、多機能に使える機能が明確ではないこれらの空間の積極的な使用は少ないことがわかった。

実態調査からは、これらの空間の積極的な行為は少なかったが、移住・施設利用に関するアンケート調査のお試し居住期間中の暮らしや生活環境の満足度では、スペースが広く、ゆったりできる、最新設備が整っているなどの意見があることから、積極的な行為が少なかったからといって、行為が見られたスペースのみで構成したお試し居住施設がいいとは言えない。

以上より、機能が明確ではなくとも空間に余裕を持たせたり、多機能なスペースを作ること自体が問題なのではなく、より活用されやすい場として計画することが必要であると言える。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①地方移住	②空き家再生	③お試し居住	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

2018 年度の日本建築学会大会、日本インテリア学会大会にて口頭発表をおこない、査読付論文に投稿する予定である。